

和紙だより

■ミシェル・ファッティーさん(紙本修復師)
「すばらしい紙をどうぞ作り続けて!」

●紙本修復には常識の和紙

私の働いているナショナル・ギャラリーの紙本保存修復部門では、古いものも新しいものも含めて、約十万点のエッチング、木版画、時には写真の保存・修復の責任を負っていますが、そこでは様々な種類の東洋の手漉き紙が使用されます。それらの紙は、今回和紙ツアーアイテムを企画してくれたアメリカの和紙ショップ「Hiromi Paper International」から購入する場合もありますし、韓国からも紙を買っています。韓国の紙は、主にFIDES Internationalというショップから買っていますが、桑の纖維(チャム・ダク)から漉いた紙で、ちょうど「和紙」という言葉があるように、「韓紙」とでも言えぱいいのでしょうか、「Hanji」と呼ばれています。強く強い纖維ですが、それを植物染料で染めた色紙は退色しにくいため、使用しています。

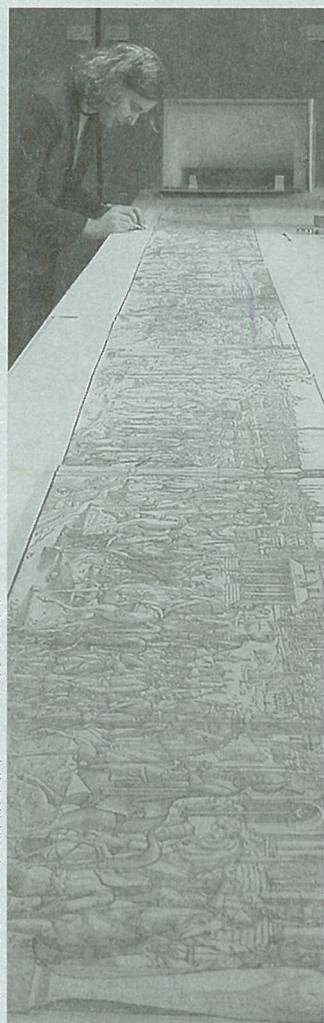
しかし、殆どは日本の紙で、漂白していない質の高い楮紙を使うことが多いですね。私は個人的には高知の「典具帖紙」が、大変気に入っています。デリケートな修復作業に、その真価を發揮する紙です。美濃紙の厚手のものも使います。

たとえば、修復品の中には、十九世紀までヨーロッパではなく使われた「タンニン酸鉄インク」で描かれたドローイングなどもありますが、酸を含んでいるため、劣化も激しいのです。「典具帖紙」を修復部分に合わせ、喰い先状に裂き、丁寧に両面から張ります。そうすると、修復を施したことが殆ど分からぬようになります。

—越前和紙への提言—

■Michelle Facini (ミシェル・ファッティー)

紙本文化財修復師。トーソン大学(メリーランド州)にて美術史、スタジオアート専攻、学士号取得。メトロポリタン美術館(ニューヨーク)及び、英国博物館にてインターナンスの後、ウインターナンス美術館/デラウェア大学大学院、保存修復学の修士号取得。国立公文書記録管理局(ワシントンD.C.)、サンフランシスコ美術館で勤務の後、現在、アメリカを代表する美術館のひとつ、ナショナル・ギャラリー(ワシントンD.C.)の紙本保存修復部門で写真も含めた紙本文化財、美術品の修復、修復家育成などを行っている。www.nga.gov



ナショナル・ギャラリーで修復作業をするミシェル・ファッティーさん

日本の和紙は、アメリカでも紙本修復に大変良いことは、昔から知られていました。私が紙本修復の勉強を始めた時には、それは当たり前の事として教えられましたし、実際の大学の授業でも、和紙の扱い方をしっかりと習います。

●アメリカの紙本修復師教育

アメリカの文化財・美術品修復の教育システムは整っていて、油絵などの絵画修復などは、よくテレビなどでも目にしますし、人気があります。修復ジャンルには、他に家具、彫刻、テキスタイル、写真、額、現代アートではプラスティック、デジタルアートなどがありますが、紙本修復となると、余りよくは知られてはいませんし、就職も狭き門でしょうね。

●素晴らしい紙を作り続けて下さい

私の経験をお話ししますと、紙本修復の修業過程は三年間で、一年目は美術史、工芸品技術に焦点を当て、特に材料の物理特性、化学特性は必須科目です。素材の劣化メカニズムなども学びます。二年目は、実際の修復作業に焦点を当て、印刷物、ドローイング、写真等の修復処置技術、検査、記録、問題解

決法、適切な修復方針の決断の仕方(芸術家の技術や意向を尊重し、学芸員へ修復方針を提案)、適切な收藏法、扱い方、展示方法、移送法や紙の変質・劣化を前もって防ぐ技術などを勉強します。私の場合、三年目は、英國博物館、サンフランシスコ美術館の紙本修復研究室で勉強しました。

イギリスにも三つの大学で紙本修復を教えてくれるところがあり、包括的システムティックなプログラムが提供されているといふ点では、アメリカと同じでしょう。だから、紙の本場、アジアからの留学生も多いのです。今回のツアーにも、韓国や中国、シンガポールの学生が参加しています。アメリカは紙本修復の勉強や訓練には一番いい場所だと思います。

日本の和紙の産地が、苦戦を強いられていることは私達も知っています。行政も日本の手漉きの技術をしっかりと守ってくれることを真に望んでいます。手漉きの和紙はアメリカでも小さな市場で、ユーリーは紙本修復師とアーティストに限られるでしょう。しかし、世界的な観も和紙は高いですから。しかし、世界的な観

点から見ても和紙を守ることは必要なことなのです。そうでないと私達の仕事もできなくなるばかりか、文化の損失にも繋がります。アメリカの修復師は日本の紙の価値をよく理解しています。だからこのようないツアーリーにも出掛けいくのです。もっと和紙のことを知り、勉強したいという熱意を持っています。

アメリカの学校では美術教育の時間が限られているために、美術館が校外授業などで肩代わりをする傾向があり、開かれた美術教育を子どもや一般の人たちに提供しています。和紙も実際作るのにどれだけ大変なのかを見ることによって、人々は見て、触って、その価値を理解するのだと思います。

ですから情報発信は大変重要です。今回和紙の产地を回ってみて、山々に囲まれた豊かな自然や水、そして何よりも和紙の職人さんがいかにいい紙を作ろうとしているかの熱意が伝わってきて、感動しました。私は和紙作りの歴史、纖維の科学的で正確な情報、どんな漉き手がいるのかなどの情報を望んでいます。とにかく、この素晴らしい紙を作り続けて欲しいと思いますね。



韓国、中国、シンガポールからの参加者も含む今回の和紙ツアーリーに参加した紙修復師の皆さん(大瀧神社にて)

■ 和紙ちぎり絵 しゅんこう 全国ネットの和紙ちぎり絵教室最大手



本部代表指導講師の田中悠子さん
<http://www.washi-chigirie.com>

手漉き和紙を指先で、ちぎる、剥ぐ、貼るといつた手法で制作していく絵画「ちぎり絵」の教室を全国展開している「和紙ちぎり絵しゅんこう」は、この分野で最大手。しゅんこう本

部代表指導講師、(財)日本和紙ちぎり絵協会理事長の肩書きを持つ田中悠子さんに、神戸三宮駅前の高層ビル内にあるギャラリーで、お話を伺う。

●しゅんこうの歩み

当社は、現社長中野肇氏の母、中野はるさんが自宅で趣味にと考案したちぎり絵を、一九七六年、同氏が事業化することに始まる。神戸、芦屋、宝塚、西宮の直営教室と通信教育を行して開講。当時の通信教育会員数は主婦を中心におよそ五百人。順調に会員数を増やし、そろそろ教えたいという人も出てきたので、八〇年から講師認定制度を設定し、全国に広がる基盤が整った。現在、講師数は約三〇〇人、三〇〇〇教室、生徒数三万五千人にのぼる。講師になるには、当初一定の単位取得が必要だったが、最近では、高齢化社会に伴い単位数に厳しくするより、もっと気軽にちぎり絵を楽しめるよう緩やかにしている。講師認定を取れば、

誰でも自宅や公民館等好きな場所で教室を開き、講師として活動できる。費用は認定講師証書発行時に多少の費用がかかるが、支部なども採つておらず、本部への上納金なども一切ない。セットになつた教材を買つてももらうことで、本部の運営費一切をまかなつていて。教材は、初級で一点七〇〇円程度、中級・上級となると六・八号もあるので三・七〇〇円になるが、平均千五百円くらい。はさみ、のりとセット教材(和紙、図案)できあがり写真、台紙だけで、大げさな道具はいらず、他の趣味に比べ材料費も安い。生徒さんの平均年齢は六十五才位。指先を使うことで大脳を刺激し、お年寄りの老化防止にもいいと評判だ。

●オリジナル和紙を自ら制作

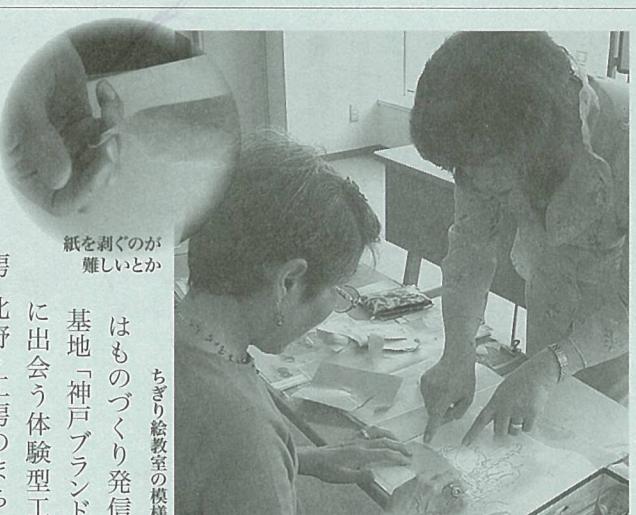
アートギャラリーと販売コーナーを併設した本部事務局は、関連組織の運営にもあたつてゐる。

神戸の人気観光エリア、北野の西端に廃校になつた元小学校のレトロな建物内に、神戸市

サロン・ド・パビエ神戸和紙のある
体験型工房--北野・工房のまち
入り口



ギャラリーと販売コーナー



紙を剥ぐのが
ちぎり絵教室の模様
はものづくり発信
基地「神戸ブランド
に出会う体験型工
房--北野・工房のまち」

を一九九八年開設した。修学旅行生や観光客で賑わうこの施設の一角の「サロン・ド・パビエ神戸和紙」では、しゅんこうで使う和紙が制作されている。ちぎり絵のファンは増えているのに、全国の手漉き和紙の产地は縮小している状況下、材料の供給が今後潤沢にできるかどうかが不安要素だった。何とか自分たちでちぎり絵にふさわしい紙を漉けないものかと考え、社員一人を二年ほど高知で修行させ、紙漉きを習得させた。その後漉き手を育て、現在この手漉き紙工房では五人が働いている。観光地なので紙漉きやちぎり絵制作体験ができるのは勿論のこと、和紙販売、ギャラリーコーナーもある。ここで漉かれるしゅんこうオリジナル和紙は、紙を剥ぐことができるよう、厚めで、染めも一枚の中に濃淡があり、使いたい頃合いの色が選べるように工夫されている。「無地だけでは面白くない」と社長自らが考えたという。

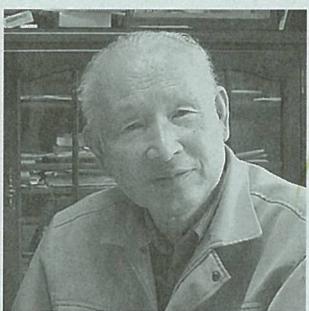
●見せる喜びの創出

数名の講師で考える教材は、和紙でイメージされるような和風ではなく、淡い水彩画のようで、花、風景、静物、季節の祭事など、女性好みの繊細な図柄が特徴だ。教材だけでは物足りなくなり、オリジナル作品を作る熱心な会員の作品発表の場として、「日本和紙ちぎり絵協会」が一九八七年創設された。十二名でスタートした協会は、九四年に文科省の財團法人格を取得し、現在、会員数は賛同会員も含め千名となつた。毎年、公募展を開催。今年で十八回目を迎える。入賞者には文部大臣賞他が贈られる。地道な活動が認められ、文化庁からの推薦で、首相官邸を飾る絵を現在も四十点ばかり提供している。神戸空港その他の施設にも絵を提供している他、NHKの趣味番組「趣味悠々」「おしゃれ工房」での紹介、ユニセフカードに採用されるなど、活動は多岐に亘る。

小さい頃から絵を描くのが何より好きだったという田中さんは「生徒さんは、和紙に触れている時は気持ちが穏やかになって、触っていること自体が楽しいとおっしゃってくださいます。手紙も余り書かなくなつて、今はメールでしょ。何でもコンピュータの時代ですが、私達はあくまで手漉き和紙にロマンを感じてやつてきましたし、また人間回復の時代がやつて来るのではないか」と思いますが」と語る。神戸新聞の文化教室の和紙ちぎり絵講座に通つてあるご夫人は、「ちぎり絵をやつてある時間だけ、年寄りの世話を疲れもすつかり忘れる。私の生き甲斐です。」と話してくれた。全国にいるちぎり絵ファンの一端を垣間見た気がした。

漉き場探訪

■九代 岩野市兵衛さん 「健康な紙を漉きたい」



九代 岩野市兵衛さん

岩野市兵衛さんは、全国で六件しかない数少ない手漉き和紙の分野における重要無形文化財保持者、いわゆる人間国宝である。先代の八代市兵衛さんも昭和四三年に人間国宝に認定され、現在の九代市兵衛さんも、平成十二年に認定を受けたので、親子二代にわたる快挙と言える。初代市兵衛から数えると約三百年。息子さんも十代目を継いだ。奉書一筋の家に守られてきた「越前生漉き奉書」とはどんな紙なのだろう。漉き場は大滝の山際にある。

●越前の名をつとに知らしめた原点の紙

岡太神社には、日本に初めて紙の作り方を教えたと伝わる川上御前を紙祖として祭つてあります。それが、その川上御前が伝えた紙というのが「生漉き奉書」だらうと言われています。生漉き奉書とは、楮百%で漉いた紙なのです。私の家は二九〇年くらい、頑固にこの生漉き奉書を守り通してきています。文化庁が人間国宝として認定してくれているのは、手漉き和紙

の基本となる紙作りを続けているので、文化的にもこの仕事を無くしては困るというので認定されていて、私が特に紙漉き上手だからといふわけではないのです。(笑)。

生漉き奉書は昔は公文書用でしたが、現在は版画用紙です。版画といつてもエッチング、リトグラフ、木版画といろいろあります。木版画に一番適していて、代表的な用途は浮世絵と現代版画用紙です。浮世絵も以前は海外に多く輸出していたのですが、最近は円高の影響もあり、なかなか採算が取れなくなつてしまつた。現在は現代版画の作家の人達が主た

る紙でないといけない。しかも彼の紙は、発色がよく、刷り後数年経つてさらに色彩が冴え回だが、現代版画は多いもので三百度刷りかかる。浮世絵の刷り回数はせいぜい二十九三五回だが、現代版画は多いもので三百度刷りもあるそうだ。三百回刷つても、破れないのは勿論のこと、三百回目にも絵の具を吸う力のある紙でないといけない。しかも彼の紙は、発色がよく、刷り後数年経つてさらに色彩が冴えてくる。白い余白にもシミができるにくい。市兵衛さんの紙を使うと同じ図柄でも賞が取れる

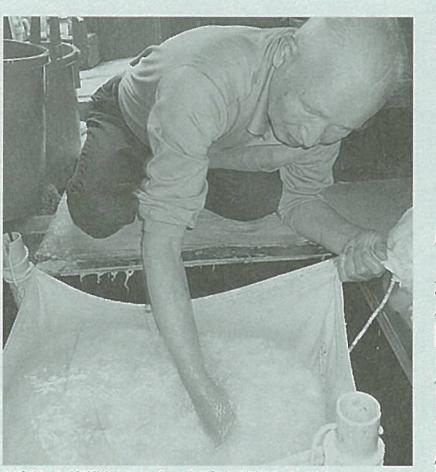
ところだ。私はその紙を使つて、これまで手漉き和紙にロマンを感じてやつてきましたし、また人間回復の時代がやつて来るのではないか」と思いますが」と語る。神戸新聞の文化教室の和紙ちぎり絵講座に通つてあるご夫人は、「ちぎり絵をやつてある時間だけ、年寄りの世話を疲れもすつかり忘れる。私の生き甲斐です。」と話してくれた。全国にいるちぎり絵ファンの一端を垣間見た気がした。



2008版画大賞を取った牧野光陽さんの作品にも市兵衛さんの紙が使われている

●できるだけ健康な紙を漉きたい

私の使う楮は水だけで何時間炊いても、柔らかくなりません。柔らかくするには、乾いた原料の二%のソーダ灰を入れて、四時間炊く。楮は紙の中で一番長い纖維で、平均七ミリから一センチ。長い纖維として生まれてきたありのままの素材を大事にして長いままで漉きたいと思う。ちょうど葉をなるべく飲まずに病気を治すように、ソーダ灰も最小限に使つて「健康



叩解した楮纖維を水中で何度も攪拌しながらデンプン質を洗い出す紙出し作業

な紙」を漉きたい。薬剤などの不純物の混じった紙ほど、変色やシミの危険性が増すのです。チリやスジも水の中でひとつひとつ手で取ります。親父から「おまえは、よその紙を見るな」とよく言われました。今、家内と私と息子の三人で、材料を煮て、チリ取つて、叩いたりしますが、濾過(ふね)に入れる紙料にするまでに、ものすごく労力がかかるので、一週間にたつた二日しか紙を濾けません。

●この地の自然に恵まれて

材料は茨城県の那須楮を契約栽培してもらっています。楮の栽培は日当たりの良い段々畑が適していて、上まで登つていて手入れするのも大変なので、手入れ不足の原料が多くなつてきました。伸びた時に一本に選定した楮がよく、これをやらないと雑な材料ができる。冷夏と雨が大敵で、俗に「日照り楮」がいい。草刈りもしなくてはいかんし、肥料をやつた方が伸びもいいし、皮も厚い。台風が茨城県を通過するという天気予報を聞くと、心配で仕方がない。

恵まれていることは、中性の軟水がこの土地にあることです。谷川の水もPH6の中性、井戸の水もボーリングの水も使いますが、それも同じPHです。ということは如何にこの辺の土地の水がいいかということの証として、試験場で水の成分分析をしてもらつても、含有物がものすごく少ないらしいです。つまり不純物が少ない。この水のお陰でこの紙が漉けるのです。最近、中国から酸性雨、黄砂が来て、水に染み込んでくると、水質が悪くなつて紙が漉けなくなるのではと心配していますよ。全国各地の漉き手仲間も心配していますよ。

■雑貨好きが立ち上げた「紙日和」(かみびより)

越前和紙の手作りオリジナル雑貨ブランド「紙日和」が、当地を訪れる観光客に人気だ。小さい頃から紙に興味があつたという北海道出身の東野早奈絵さんが、商品企画と制作を手掛けている。大学卒業後六年間札幌で勤務の後、東京の雑貨関係の会社で販売業務に当たつていたが、少しでも紙に近づき、ものを作る側で仕事をしてみたいと、今立の和紙研修制度を利用して紙漉きを学んだ。一年前、地元の梅田和紙(株)に入社。紙の仕事をも本格的に始めた。仕事の合間にぬつて、おしゃべりも大変なので、手入れ不足の原料が多くなつてきました。伸びた時に一本に選定した楮がよく、これをやらないと雑な材料ができる。冷夏と雨が大敵で、俗に「日照り楮」がいい。草刈りもしなくてはいかんし、肥料をやつた方が伸びもいいし、皮も厚い。台風が茨城県を通過するという天気予報を聞くと、心配で仕方がない。



販売されている「紙日和」シリーズ
「紙日和」のブログがご覧になります
<http://blogs.yahoo.co.jp/kamibiyorisana>

情報欄

●イベント情報

■流し漉き体験

時:2008年7月10日(木)

場所:卯立の工芸館(越前市新在家町)
岡本小学校5年生のためのワークショップ

■福井の伝統工芸展

時:2008年7月24日(木)~8月5日(火)

場所:東京都池袋 全国工芸品センター
即売、体験実演(墨流し)

■和紙の里の七夕まつり

時:2008年8月2日(土)~3日(日)

場所:和紙の里通り(越前市新在家町)
カワソサン祭り、七夕まつり

■丹南産業フェア2008

時:2008年9月13日(土)~15日(月)

場所:サンドーム福井
福井和紙製品即売、体験コーナー

■東京えちぜん物語

時:2008年9月20日(土)~23日(火)

場所:東京都港区 東京タワーホール
即売・紙漉き、墨流し体験

●イベント報告

■第37回 金沢ペーパーショー

時:2008年6月14日(土)~15日(日)

場所:石川県産業展示館 4号館
毎年開催されている北陸圏最大の「金沢ペーパーショー」に、ここ数年に渡つて越前の漉き場が挑戦した新しい和紙の提案展「素の紙展」の作品を一堂に集め、総集編として展示しました。紙漉き体験(はがき)、和紙製品販売も併設され、盛況のうちに終了しました。



■新刊紹介

「縁側の思想」

ジェフリー・ムーサ著
平成20年3月 祥伝社刊
1980円(税込)

「和紙だより」2006年夏号で紹介した、アメリカ人建築家の吉川家久の挑戦
ジェフリー・ムーサさんの本が出版されました。

日本人が本来持っていた、土や木、紙などの自然の素材の生かし方や部屋の中に季節や自然を取り入れて暮らす方法を、町家リフォームの過程や著者の最新の作品とともに紹介しています。



■編集後記

昭和を代表する小説家、水上勉の小説に「弥陀の舞」という作品があります。越前の和紙づくりを頑固に守り抜く紙漉き職人・弥平を縦糸に、薄幸の美しい漉き子くみを横糸に織り上げた物語ですが、明治期のこの辺りの出来事も入念に調べられ、当時の和紙の里の雰囲気を彷彿とさせます。作中の弥平のモデルは、今号で紹介した岩野市兵衛さんの先代で、水上さんがこの地を訪れた折、彼の紙づくりにかける情熱に触発されて、この小説を構想したとか。水上氏ならではの叙情的な文体が冴える佳作です。このような作家に描かれるなんて、ここの産地も幸せですね。(よ)